

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
宇佐市	上庄地区 (上庄、中庄)	令和2年12月21日	令和 年 月 日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積(農業委員会の地区データを活用)	77.2ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	60.6ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	15.3ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	15.3ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	17.8ha
(備考)	

2 対象地区の課題

上庄地区の中心経営体は、個人経営及び法人経営の認定農業者が主となっており、10年間は担い手も十分に大きな問題は生じないと考えられる。しかし、10年後を考えると担い手及び法人の構成員の高齢化が懸念されるので、世代交代できるような準備をしておく必要がある。また、農道側面(3m)の草刈に苦労しているので、労働力が軽減出来るような解決策を検討して取組むことである。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

上庄の集落の農地利用は基本的には、現在主に耕作している認定農業者の個人及び法人に集約化していく。今後も、上庄地区の農地は人・農地プランに記載されている中心経営体に、地権者と耕作者と協議しながら集約していく。

中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向(5年後)		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農法	A	米・麦・大豆	17.0 ha	米・麦・大豆	20.0 ha	
認農	B	米・麦・大豆	4.0 ha	米・麦・大豆	4.0 ha	
認農	C	米・麦・大豆	10.0 ha	米・麦・大豆	15.0 ha	
認農	D	米・麦・アスパラ	3.3 ha	米・麦・アスパラ	3.3 ha	
認農	E	米・麦・大豆	1.3 ha	米・麦・大豆	4.0 ha	
認農	F	米・麦・大豆	2.0 ha	米・麦・大豆	5.0 ha	
認農	G	米・麦・大豆 小ネギ	7.7 ha	米・麦・大豆 小ネギ	7.7 ha	
認農	H	米・麦	2.2 ha	米・麦	2.2 ha	
認農	I	米・麦・WCS	2.6 ha	米・麦・WCS	5.0 ha	
認農	J	米・麦・大豆	6.3 ha	米・麦・大豆	8.0 ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
計	10人		56.4 ha		74.2 ha	

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

農地の貸付け等の意向

アンケート結果では、農地の貸付意向の土地はないとのこと。今後については、地区の集まり等の機会に行政区ごとに、地区の方に農地の貸付意向の確認を行う。

農地中間管理機構の活用方針

上庄地区は、将来の経営農地の集約化を目指し、農地の利用権設定をおこなう際には、農地中間管理機構を活用していく。

基盤整備への取組方針

上庄地区は、基盤整備のシートパイプ導入の事業を活用した。今後については、畦畔除去を行い圃場の大区画化を検討していく予定である。

新規・特産化作物の導入方針

米、麦等の土地利用型作物が主になっている。今後、水稻の価格が低下することが予想されるので、米をブランド化する取組を検討する。また、収益性の高い園芸作目の導入も地区として考えていく必要がある。